

全 … 学級全体に対する指導や支援

個 … 個人に対する指導や支援

会話の広げ方が分からない場合

① Small Talk で既習表現を活用している様子を見せる。全

言語活動を行う前に、教員やALTが既習表現を活用して会話を続けている様子を見せる。単元の学習を通して継続的に見せることで、児童はやり取りのイメージを持ちやすくなる。教員やALT以外に、前年度の児童が話している様子の動画を単元の学習の始めに見せることも考えられる。

② Small Talk で児童が既習表現を活用できる場面を設ける。全

Small Talk は、教員やALTがモデルを示し、既習表現を確認した後、教員と児童、児童同士でやり取りをする場面を設けるといった流れで行う。児童同士の場合はパートナーを替えて同じ活動を行うことで、やり取りに慣れさせることが大切である。

③ 言語活動の途中に、表現の確認をする場面を設ける。全・個

児童同士の対話を行った後、児童が伝えたかったけれど英語で伝えられなかったことを確認する。児童が既習の語句や表現で伝えられる内容について挙げた場合は教員やALTがすぐに答えるのではなく、学級全体に問い掛ける。未習の語句や表現については、日常的なものや身近なものは教えるが、難しいものは日本語を用いることも考えられる。

④ 日本語ではどのように会話を続けるか考えさせる。全・個

話をする目的や場面、状況などを示し、日本語ではどのように会話を続けるか考えさせる。「どのように会話を続けるか」「どのような質問をするか」などを児童に問い掛け、学級で共有する。その後、既習表現で使えるものは何かを考えさせる。

⑤ 対話を続けるための基本的な表現の定着を図る。全・個

対話を続けるための基本的な表現を指導する。対話を円滑に行うためには、相手の話した言葉を繰り返して話し手が伝えたい内容を確認したり、相手の話したことに何らかの反応を示したりすることが大切である。

【例】①相手の話した内容の中心となる語や文を繰り返す。

相手：I went to Tokyo. 自分：(You went to)Tokyo.

②相手の話した内容に対して自分の感想を簡単に述べ、内容を理解していることを伝える。

That's good. / That's nice. / Really? / That sounds good. など

③相手の話した内容が聞き取れなかった場合に再度尋ねる。

Pardon? / One more, please. など

④相手の話した内容についてより詳しく知るため、内容に関わる質問をする。

相手：I like fruits. 自分：What fruits do you like? など

⑥ 児童に自身の対話の振り返りをさせる。全・個

対話後「相手の言ったことを繰り返して言えたか」「一言感想を言うことができたか」などを確認し、対話を続けるための基本的な表現の使用に意識を向けさせる。